

沼津市

# 明治史料館通信

2004.10.25 (季刊 年4回発行) Vol. 20 No. 3 通巻第79号



〔壯烈〕 忠魂碑



〔日露日独戦役〕 忠魂碑

## 沼津市明治史料館は 開館20周年を迎えました

これからも、沼津の歴史の展示や  
資料の収集・保存に頑張っていきます。  
変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

ぬまつ近代史点描 ⑤9

大平の戦争記念碑

征清紀念之碑

鷺頭神社参道入口左側に建つ。

明治三十五年一〇月一五日建立。撰文は鈴木指月、揮毫は原凌雲。表面上部に扁額「征清紀念之碑」とあり、その下に大平村より日清戦争に従軍した4名の軍歴と国内にいた5名の氏名が刻され、裏面に寄付金者25名、建碑主唱者10名、世話人11名の氏名が刻されている。

陸軍歩兵二等軍曹勲八等原忠蔵君田方郡葦山村之人也移籍於我村明治十六年編第一師團歩兵第一連隊全廿七八年之役起也属第三師團後備歩兵第五連隊為東京湾守備隊成横須賀浦賀第廿七年十一月属征清之軍發我國着干盛京省大連湾柳樹屯守旅順口之北三十里堡及熊岳城蓋平等占領地翌年三月属金州半島兵站監之部丁尋以兩國和議成就就飯途七月着廣島尋解隊陸軍歩兵一等卒勲八等稻村伊太郎君明治廿六年編豊橋歩兵第十八連隊明治廿七年七月従皇軍上陸朝鮮元山津直占領須安縣九月陥平壤十月向義州涉鴨緑江追撃安平河口附近之敵兵占領梨子園及大孤山岫巖等翌年転戦蓋平及海域唐王山田莊台之各地其年四月以兩國和議成就就歸途発大連湾港六月還豊橋兵營次而帰家

歩兵第十八連隊第四中隊上等兵原伊太郎君及全連隊一等卒原萬作君明治二十九年十月属臨時台湾分遣隊向台湾討土匪転戦大坪頂廬亭仔庄之各地有功翌年十月就飯途還豊橋兵營尋帰家 原萬作上脱勲八等 當時在国者陸軍歩兵一等卒山田梅吉陸軍歩兵二等卒原茂作陸軍歩兵輜重輸卒原源次郎陸軍看護手渡邊宇源次陸軍縫工卒綾部喜作

明治三十五年十月十五日建之

鈴木指月 撰文  
原凌雲 揮毫  
原亀吉 鐫工

「征清紀念之碑」 碑文

「日露日独戦役」 忠魂碑

鷺頭神社参道入口右側に建つ。

大正一三年一〇月一五日、鷺頭神社の大祭の日に、大平村軍人分会によつて建立された。裏面には、日露戦役戦死者3名、日露戦役出征者41名、台湾守備隊病死者1名、日独戦役出征者16名の合計61名の勲等と氏名が刻されている。題号の揮毫者は陸軍大将井口省吾。井口は上石田村(現大岡上石田)に生まれ、沼津兵学校附属小学校に学んだ後、日露戦争で大本営参謀や満州軍参謀として活躍した人物で、大正九年に退役している。

「日露日独戦役」 忠魂碑  
三分市の八幡神社に建つ。昭和二九年三月二八日、建設委員18名で建立された。揮毫者は宇垣一成。裏面には戦死者87名の氏名と戦歿年月日が刻されている。内訳は、明治三七年3名、大正元年1名、昭和八年1名、一三年2名、一四年2名、一五年2名、一七年7名、一八年7名、一九年30名、二〇年28名、二一年4名となっている。建立の前年昭和二八年一〇月、「町村合併促進法」が施行され、同三〇年四月、大平村は沼津市に合併した。この時期、忠魂碑の建立が全国的に見られる。この建碑活動は旧町村の記念碑的な意味合いのものと考えられ、この碑も同じ意味合いで建立されたものといえよう。

「壮烈」 忠魂碑

真影はここに置かれた。昭和一六年二月一日奉安殿が建立され、御真影を移した。

戦後、昭和二年七月一六日付で駿東地方事務所長より市町村長、国民学校長宛に「御真影奉安殿の撤去について」(連合軍指令文書「当館蔵」という通達が出された。この中で「校舎の外にある御真影奉安殿は神社様式をもつか否かの区別なく教育上の考慮を十分払い、つゝすべて撤去すること」とされ、大平小学校の奉安殿は同年八月一六日に撤去され、山口の権現神社の社殿となっている。

奉安殿  
大平尋常小学校では、国から御真影が送られてきたが当初置く所が無く、大水に備えて職員室と教室の間に増設した2階部分に置いていた。大正一一年四月に高等科が設置され、校舎の増築の際に職員室の横に奉安室が設けられ、御



山口の権現神社  
奉安殿が社殿となっている

シリーズ  
沼津兵学校とその人材



## 沼津兵学校関係人物の写真判定

ここに一枚の写真がある。名刺版で鶏卵紙に印画されている。写っている人物は五名、刀を持ち和服を着た武士である。鬚はなく散髪なので、明治初年の撮影と推測される。背後に白い幕を張ったようすは、専用のスタジオではなく、



沼津兵学校の教授たちと思われる写真（当館所蔵）

は、三種類ほどの写真が残

次に真ん中の人物。これは、三種類ほどの写真が残

されている塚本明毅（沼津兵学校一等教授）に顔立ちが似ているような気がする。

また、右から二人目は、渡部温（同一等教授並）ではないか。沼津時代に撮影されたという、一人で写った丁髷姿の写真（『明治文化全集』第十四巻掲載）に、顔の輪郭や少し目が下がったところなどがよく似ているのだ。晩年の渡部は、「軀が大きく、よく肥っていた」（片桐芳雄「幕末明治の洋学者・渡部温（二郎）覚え書③」）という

が、三〇代前半の沼津時代はまだ瘠せていたと思われる。

明治初年、藤沢・塚本・渡部が揃って写真に収まったという機会は、沼津兵学校以外にはまず考えられない。場所は沼津ではなく、出張先の静岡や東京の可能性もあるが、だとすれば、両端の二人も沼津兵学校もしくは静岡藩関係者の可能性が高い。当時、沼津にカメラを操る者がいたのかどうかは不明である。しかし、明治三年、横浜の写真師臼井蓮節（下岡蓮杖の妻の弟で弟子）が静岡や沼津にやって来て営業を行った事実があ

る（『木村熊二・鏡子往復書簡』、東京大学史料編纂所蔵「志村貞廉日記」五月一日条）。

これが本当に沼津兵学校関係者の写真であると断定することはできない。しかし、その可能性は低くない。何故ならば、これはアルバムの中の一枚であり、他に赤松則良・林洞海・勝海舟・山岡鉄舟・榎本武揚・大島圭介・中島三郎助・松岡盤吉といった旧幕臣・沼津兵学校関係者の写真がいつしよだったからである。アルバムの持主は、高橋栄司という旧幕臣らしい。高橋は軍艦回天に乗り組んだ幕府海軍士官で、榎本武揚脱走軍に加わり箱館戦争を戦い、後に明治政府に出仕し海軍大機関士となった。明治一八年（一八八五）五月二七日四四歳で亡くなっている。やはり幕府海軍士官だった兄昇吉（万延元年没）の墓誌は、塚本明毅が撰している（豊島区・妙典寺）。

沼津兵学校時代の写真はゼロに等しく、極めて貴重な資料ということになる。本資料は沼津市明治史料館が古書店から入手したものである。（樋口雄彦）

### お知らせ欄

◎企画展「天地鳴動―沼津と噴火・地震・津波―」の終了

7月24日から9月26日まで開催していた企画展「天地鳴動―沼津と噴火・地震・津波―」は無事終了しました。ご観覧頂いた方々、ご協力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

また、企画展に合わせ9月4日に開催した歴史講演会「沼津が揺れた時―噴火・地震・津波災害史―」には定員いっぱい100名の方に受講していただきました。

◎夏休み企画の結果について

「高校生のための一日学芸員体験講座」（8月10日実施）には5名、「平和を考える親子戦争史跡めぐり」（8月11日実施）には6組12名、「史料館を探検しよう」（8月4日、7日、20日、24日実施）には計13名の参加者がありました。

◎古文書解読入門講座の結果

9月から10月に5回にわたって開催した古文書解読入門講座には25名が受講し、くずし字の解読に取り組みました。



歴史講演会の様子

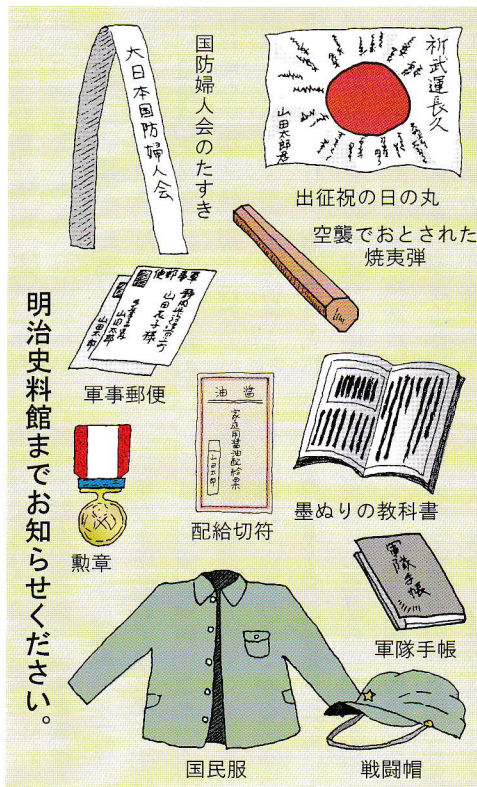


戦争史跡めぐりの様子  
(於中沢田砲台公園)



ぬましんストリートギャラリーでの展示作業

来年は終戦60周年にちなんだ企画展を開催します。日記、手紙、写真、戦時中に使ったものなど昭和の戦争に関する資料をご提供ください。



明治史料館までお知らせください。

行い、実習生も真剣に実習に臨んでいました。

◎博物館実習について

9月1日〜11日の日程で学芸員資格の取得を目指す博物館実習生5名を受入れました。大手町のぬましんストリートギャラリー200回記念企画展「沼津藩主水野家歴代当主書画展」の展示作業、教育普及事業（歴史講演会）の運営補助、館所蔵資料の整理、展示企画の作成、発表など実践的な実習を

沼津市明治史料館通信 第79号

編集 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂三七一―一  
電話 〇五五―九二―三三三三五  
FAX 〇五五―九二―三三〇一八  
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm